

国際学部同窓会学生ボランティア支援ファンド実施報告書

(表面)

報告年月日 平成 25 年 5 月 17 日

国際学部長 殿

報告者氏名 手塚美希 印

(団体名) UP(宇大生プロジェクト)

学科等・学年 国際・国際社会3年 学科専攻 年

住 所

電 話 番 号

メールアドレス

下記のとおり報告書を提出します。

<p>1. 事業内容の概要</p> <p>(別紙添付可・写真添付のこと)</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>2. 実施期間</p>	<p>平成 24 年 5 月 3 日 ~ 平成 年 5 月 4 日</p>
<p>3. 事業実施後の成果・所感等</p> <p>(別紙添付可・写真添付のこと)</p>	<p>今回実際のボランティア活動は中止という形にはなってしまったが、実際に現地に行って自身の目で見て感ずることができたことは大きな成果となったと感じている。募集した参加者の全員が被災地を目にしたことが初めてであり大きな印象もったと感じたようであった。参加者の感想をいくつか抜粋して伝えたいと思う。『三人くらいの感想を抜粋してそのまま書く』このように言葉では伝えることができない現地のことを伝えることができた私たちは考える。</p> <p>後日参加者に集まっていただき振り返りミーティングを開き、各々の気持ちや感じたことの共有を行った。この中から私たちの活動にこれからも関わってほしいという学生もいて、これからの私たちの活動が継続して行える体制作りの一歩を踏み出すことができた。</p>

(裏面)

4. 経費収支報告				
使用額総計		188,100	円	
経費内訳 (必ず領収書を添付すること)	旅費	行先	金額	備考
	バス手配 188,100	宮城県仙台市若林区	188,100	
	消耗品等	品名・仕様等	金額	備考
	円			
	その他	事項	金額	備考
	円			
5. その他特記事項				

別紙

≪5月3日(木)≫

20:30 UPメンバー集合

大学本部棟入口前にて受付準備

21:00 バス到着(本部前に誘導)

21:30 参加者集合・受付開始

22:00 宇都宮大学を出発

途中、東北自動車道的那須塩原SAと国見SAで休憩

なお、豪雨による一部通行止めで5/4(金)早朝まで国見SAで待機

≪5月4日(金)≫

7:30 ReRoots 若林ボランティアハウスの駐車場(七郷中の側)到着

8:50 ボランティアハウスに移動

9:00 ボランティアハウスにて朝礼ミーティング

(雨天により作業が困難になったため、予定を変更し被災地案内プログラムに参加)

10:00 若林区公民館にて、ReRoots 代表広瀬さんによる講演会

12:00 現地視察(活動予定場所であった農地とその周辺、荒浜小学校とその周辺、慰霊碑の見学)

16:00 ReRoots 若林ボランティアハウスを出発

17:00 安達太良SAで休憩

19:30 宇都宮大学到着・解散

【参加者内訳】

合計:27名

▽内訳

女:18名 男:9名

学生:26名 教職員:1名

国際学部:16名 農学部:4名 工学部:4名 教育学部:2名

【当日の活動報告】

今回は宇大生プロジェクトのメンバーと新しく宇都宮大学に入学した新入生を対象をとして参加者を募った。当初の予定では、東日本大震災による津波の被害を受けた宮城県仙台市若林区で主に農地復興活動をしているボランティアハウス「ReRoots」と共同して、若林区内の荒れ果てた農地の復興活動(畑に埋まったガレキの撤去や土おこし等)を行う予定であった。

しかし、活動前日の夕方から当日にかけて関東地方から東北地方を台風が通過するとの予報を受け、当日屋外での活動が困難であることが予想された。急遽UPのメンバー達で話し合い、一度は活動の延期も検討されたが、(1)当日雨天の場合を想定して ReRoots が屋内で「被災地案内プログラム」を開催すること、(2)当日仙台市では午後から雨が止む予報であったため、午後から屋外での活動を行える可

能性があった、という2点から、当初の目的が十分に達成できると考えた(なにより参加者の人達に被災地の現状だけでもよく見てほしかった)。そこで ReRoots 代表広瀬さんと連絡を取り合った上で、当初の予定を変更し午前中は案内プログラムに参加、天候を見ながらその後の活動を考える、という形をとった。

当日の明け方に仙台市若林区に到着、ReRootsの指示に従い午前中は案内プログラムに参加した。このプログラムには、私達だけでなく各地からボランティア活動をしに訪れた他の団体や地元住民の方など、多くの方々が参加した。案内プログラムでは、まず午前中に ReRoots 代表の広瀬さんによる講演が行われた。主な内容は、今までの ReRoots の取り組みや現在の被災地の状況、今後の展開などであり、どれも具体的に話して下さった。宇都宮大学からの参加者の中には、話を聞きながら熱心にメモをとり何度も具体的な質問をするなど、被災地の今をしっかりと把握しようとする姿が多く見受けられた。

午後は雨こそ止んだが、活動を予定していた農地に雨水が溜まっていたため作業が困難と判断、引き続き案内プログラムに参加し被災された若林区の農地を見学した。その際、居合わせた農家の方々から震災当時のお話を聞くこともできた。その後、最も津波の被害を受けた若林区荒浜を訪れ、半壊した荒浜小学校とその周辺を見学。最後に海岸沿いに建てられた慰霊碑の前で参加者全員が手を合わせ、現地での活動を締めくくった。

不本意ながら、本来の目的の一つであった屋外でのボランティア活動は結局行うことはできなかったが、当日同行した参加者からは「被災地を見学できただけでも様々なことを感じた」、「ボランティア活動ができなくても得るものは充分にあった」、「復興の視点・視野が広がった」、「もう一度被災地に行って、今度こそボランティア活動をしたいという思いがより強くなった」等といった声を聞くことができた。ボランティア活動こそはできなかったが、私達含め参加者全員に被災地の現状を知ってもらえたこと、震災への意識を再確認するきっかけの一つと成り得たことが、今回の活動を行ったことで最も意義があったのではないかと私達は考えている

【参加者の感想】

- ・実際に活動に参加できずに残念だった。今度は活動できるときにまた参加したい。
- ・今回参加できずに残念だったけれど、その分ゆっくりと時間をかけて被災地の様子を見て回れたのは非常に有意義だった。
- ・今回は活動ができなかったけれど、現地をみてまわってあらためて継続的な支援の必要性を感じた。



